

核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会

原爆の恐ろしさと平和の尊さを見つめ直して欲しい

～広島には女性と子供とお年寄りしかいなかった～

連合福島主催による「2016年核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会」は、8月20日（土）福島市にある福島県教育会館大ホールにおいて、県内各地の加盟組織から約300名が結集して開かれた。



ご講演を頂いた原田元平和記念資料館館長

引き続き元広島平和記念資料館館長の原田浩氏にお越し頂き、「ヒロシマの願いを世界へ」と題して講演を頂いた。原田元館長は講演で、

核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会



平和アピール宣言を読み上げる
大越青年女性委員会代表幹事

冒頭、主催者を代表して今泉裕連合福島会長は「戦後71年が経過して、初めて現職のオバマアメリカ大統領が5月27日広島を訪問した。滞在時間は短かったが、このことが核兵器廃絶に向けた今後の大いなる行動に結びつくことを期待したい。また、年に一度の平和集会ではあるが、原爆の恐ろしさと平和の尊さを、この集会を機に是非見つめ直して欲しい。」と挨拶した。



主催者代表挨拶をする今泉連合福島会長
「戦後71年が経過して、初めて現職のオバマアメリカ大統領が5月27日広島を訪問した。滞在時間は短かったが、このことが核兵器廃絶に向けた今後の大いなる行動に結びつくことを期待したい。また、年に一度の平和集会ではあるが、原爆の恐ろしさと平和の尊さを、この集会を機に是非見つめ直して欲しい。」と挨拶した。



熱心に傾聴する参加者の皆さん

「広島に原爆が投下された時、広島には女性と子供とお年寄りしか

いなかった。原爆投下は本当に正しかったのか、検証して行くことがこれからの核兵器廃絶に結びついていく。」と訴えた。

最後に唯一の被爆国として、核兵器による悲惨な被害が二度と起こらないように、核兵器廃絶と今後も継続して平和運動を粘り強く取り組んで行くとした「2016ふくしまからの平和アピール宣言」を大越香代子青年女性委員会代表幹事が読み上げ、満場一致で採択して、平和を求める福島県民集会は閉会となった。